

ダボス・アジェンダ 岸田総理大臣によるスピーチ  
(令和4年1月18日)

シュワブ会長、  
ご出席の皆様、

本日、世界経済フォーラムの「ダボス・アジェンダ2022」が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

1. はじめに

政治生命をかけた挑戦を経て、総裁選勝利、内閣総理大臣就任、総選挙で安定多数を確保しました。自分の政治スタイルは、国民や現場とのコミュニケーションを何より大事にしつつ、攻めの姿勢でスピーディーに政策を打ち出すことです。

このスタイルを最大限活かして3つの政権アジェンダに正面から取り組んでいきます。第一に、新型コロナの克服。第二に、“新しい資本主義”による日本経済再生。第三に、新時代リアリズム外交の展開です。

本日は、“新しい資本主義”による日本経済再生に重点を置いて私の考えをご紹介しますと思います。

## 2. “新しい資本主義”とは

気候変動、デジタル社会変革、格差や貧困の拡大、中長期投資の慢性的不足、都市と地方の格差、中間層縮小による民主主義の危機、ジオポリテクス・ジオエコノミクスでの新たな緊張感の高まり。

50～60年代の福祉国家や大きな政府実現の試みや、80～90年代のレーガン、サッチャーによる新自由主義の展開。これらと同様の歴史的なスケールでの政策パラダイムの転換の時代を迎えたと捉えています。

このダボス会議でも the Great Reset、ステークホルダー資本主義など先見性をもった活発な議論が行われてきており敬意を表します。

「監視なき権力集中をもたらす国家資本主義」は社会変革を行なう上では効率的であるとの指摘もあります。しかしながら、チェック機構を欠く国家資本主義は、国内外で大きな副作用を伴う行動をするリスクが高いことは歴史が示すところです。

「民主主義の普遍的な価値観を守りながら、新しい時代に向けて経済社会を大きく変換していく」すなわち、“Great Transformation of Liberal Democratic society”を目指していきます。

米国のバイデン政権のビルド・バック・ベター、EUの次世代EUも、同じ目的をもった歴史的な社会変革のイニシアティブだと理解しています。

選挙による国民の厳しい評価を受けながら、経済社会変革をしっかりと進めていきます。そのためには、主要国の政府や産業界・労働界のリーダーが協調し、世界的に政策パラダイムの「大きなうねり」、「歴史の潮流」を作っていくことが重要です。

日本は、我が国が来年のG7議長国を務めることを見据えながら、“新しい資本主義”によって世界の流れをリードするとの思いを持って資本主義の進化の実例を示していきます。

### 3. 日本経済再生への取り組み

「コップに『半分入っている』から、コップは『半分空である』に変わる時、イノベーションの機会が生まれる。」

経営学者 P. E. ドラッカーのコップ理論です。日本は、豊かで住みやすく穏やかな国。自分のサイロに閉じこもり「半分入っている」になりがちです。しかしながら、コロナを経て、時代は、急激に変わっています。

地球規模の危機を実感する時代。国民一人一人、事業者それぞれが、「半分空である」という思いを共感すれば、日本は持ち前の団結力を活かして大きく変貌できると確信しています。

私が目指す“新しい資本主義”では、日本の経済社会が直面する歴史的挑戦の全体像を国民に分かりやすく示します。その上で、市場や競争にすべてを任せるのではなく、官と民が経済社会変革の全体像を共有しながら、変革のために協働していくことを重視します。日本の連帯感の強さは新しい官民協働の土台となります。

そして、投資を引き出す新しい仕組み、また、付加価値分配のあり方を変えるための新しい仕組み。これらを成長戦略、分配戦略それぞれに埋め込んでいくことで、「成長と分配の好循環」を本格的に回していきます。

#### 4. 経済社会の変革

##### (1) グリーン社会

日本は、パリ協定の実現に向け2030年度46%削減、2050年カーボンニュートラルの目標にコミットしています。目標達成の道のは、極めてチャレンジングです。国際的な電力グリッドを持たず、福島第一原発事故による原発不信が強く残り、再生可能エネルギーも山多く海深い島国のためコスト高にならざるを得ません。これが、日本経済の弱みになっています。

こうした供給面での弱みを克服するために、需要・供給両面にわたる炭素中立社会への変革とイノベーションに官民が協働して集中的に取り組めます。

早期に投資を倍増するための制度改革や政策支援、次世代グリッドなどの前倒し整備。さらに産業構造や個人消費を変革するカーボンプライシングや労働市場改革などです。これまで政治的に困難だった政策も気候変動への国民の危機感を背景に大胆に取り組んでいきます。

また、アジアには我が国と似たエネルギー構造を持っている国も多くあります。EUが冷戦下での欧州石炭鉄鋼共同体から始まったように、地政学・地経学両面で難しさが増すアジアでゼロエミッション技術の開発や水素インフラでの国際共同投資、共同資金調達、技術標準化、アジア排出権市場などを内容とする「アジア・ゼロエミッション共同体」を目指していきます。

## (2) デジタル

もう一つの重要な柱は、デジタル化です。日本では、デジタル化が不十分でした。原因は、これまで慣れ親しんだ仕事のやり方を変えたくないという変革意識の欠如です。

しかし、コロナ禍で多くの方が、デジタル化の遅れと利便性を改めて認識しました。また、過疎化や高齢化の進展は、日本の社会課題解決には、デジタルの力が不可欠との気づきをもたらしました。

今が「チャンス」です。この機に、日本のデジタル化を、一気に一気に進めます。重要なのは、インフラです。

日本を周回する海底ケーブルを整備し、列島全体に、光ファイバー網を張り巡らせます。また、大規模データセンターを日本各地に分散させ、本格的なデジタル時代の到来によるデータ処理量の急増に備えます。さらには、現在の100倍の速度と、10分の1の省電力化を実現する光通信技術を使って次世代ネットワークを推進していきます。

官民で数値目標を掲げ、計画的に整備し、超高速大容量の回線を、「一個人一回線」で利用できるようにしていきます。

新たなビジネス・サービスには、既存の制度が適合しません。4万件の規制・制度をデジタル原則の下で見直します。ドローン、自動走行、医療、教育など、新たなルールを作ることで、新たな市場を創出することが重要です。

今から3年前、ダボスの地で、我が国が提唱した、「データ・フリー・フロー・ウィズ・トラスト」DFFTを更に前に進めます。信頼という基盤の上に、イノベーションをもたらし、富の格差の解消にもつながる自由なデータ流通を実現させます。

### (3) 人への投資

炭素中立型社会、そして、デジタル両方の分野のカギが、「人」への投資です。人が持つ、独創性や、創造力といった力が、課題解決や、イノベーションの源泉となる時代です。

日本企業は、長年、コストを抑え、他社よりも安い製品の供給競争を戦ってきました。この中で、人への「投資」はコストとみなされ、賃金は上がらず、人材育成などへの投資も抑制されてきました。

これからは、人への投資が、持続的な企業価値の向上につながり、さらなる人的投資を呼ぶという好循環をつくらなければいけません。雇用能力教育のための新たなプログラムや、女性の幹部登用の拡大、副業の活用など、デジタル社会への変革にふさわしい人的資本を支えるシステムを作っていきます。

その際、企業だけでなく、市場関係者との間で、人への投資が、企業価値の源泉となるという共通認識を作り、中長期的な企業価値向上を進める企業に、より多くの資金が集まる仕組みを作っていくことが重要です。そのために、日本では、人的資本投資など非財務投資に関する開示制度をつくっていきます。

#### 5. 持続可能な日本経済へ

日本は、これまで、金融緩和、財政拡大、成長戦略を三本柱として、世界標準のコーポレートガバナンスなども含めた「アベノミクス」を掲げてきました。アベノミクスの結果、日本経済は、もはやデフレではないという状況となり、女性の労働参加拡大、雇用の拡大などを成し遂げました。

このように、アベノミクスは、大きな成果を上げてきましたが、持続可能で、包摂的な日本経済に変革していくためには、これまでの取組だけでは不十分なことは明らかです。

私の内閣では、アベノミクスが成し遂げたマクロ経済や市場関連の実績を土台として、グリーン・トランスフォーメーション、デジタル・トランスフォーメーションなど日本の経済社会の変革を大胆に進めていきます



国民の危機感を背景に、日本経済の弱点と言われている分野の克服に、国民の挑戦と投資を集中的に引き出していく仕組みをデザインし、実装していきます。

## 6. おわりに

今、我々は、Great Reset の先の世界を描いて行かなければなりません。

新しい時代を切り拓くためには、価値観や置かれている状況、立場の違いを超えて対話を積み重ねることで、多くの人々が、信頼によってつながることが極めて重要です。

ダボス会議は、長年にわたり、まさに、そうした精神を体現する場として、世界中の政治、経済のリーダーを惹きつけてきました。

今後、ますます、政治と経済が、それぞれの立場を超え、共に「公」について議論をし、行動していくことが重要になる中で、この場の重要性が高まっていくと確信します。

シュワブ会長はじめWEFの皆さま、聴衆の皆さまの益々の御発展を祈念し、私のスピーチとします。

ご清聴ありがとうございました。